

八十年生きたあかしとして

香美市物部村 公文 寛伸（八十歳）

終戦から七十二年の歳月が流れ、平成も二十九年となり、気が付けば八十才となった。
親父の顔も充分知らない、はなたれ小僧が、地域皆様の温かいご援助と、お力をいただき大人の仲間入りをした。

今まで頑張ってこられたのも、家族の支え合っただけのことであり、八十歳を迎えた気持ちをここに記す。

生きる

作詞 公文博信 寛伸
(七五調五行調)

一 国にささげし父の死を

ひめた心で生きてきた
つらく厳しい世の中を
生きる喜び 噛みしめて
父に感謝 有難う

二 母の愛なく今はない

厳し世間の風当たり
命懸けての生きざままで
託す子供のすね伸ばす
母に感謝 有難う

三 夢の実現 人生と

固い決意で生きてきた
俺の歩んだ道こそは
お前なしでは生きられぬ
妻に感謝 有難う